

## 定期報告(ウルグアイ内政・外交:2021年2月)

### 1 ポイント

#### 【内政】

- Factum社が1月に実施した調査によると、ラカジェ・ポウ大統領の支持率は54%(不支持率44%)。
- 1日、塩、砂糖、脂肪等を過剰に含む食品の表示義務化。
- 1日、社会開発省のマルティネリ事務総局長が辞任。9日、後任にオビエド法務・公証業務部長が就任する旨発表。
- 11日、緊急検討法に対する国民投票実施賛同委員会はキャンペーン活動開始から133,095名分の署名を集めた旨発表。国民投票実施には7月8日までに有権者の25%にあたる約70万人の署名を集める必要がある。

#### 【新型コロナウイルス】

- 1日、デルガド大統領府長官は王剛駐ウルグアイ中国大使とワクチン調達に関する会合を実施。
- 1日、国境措置の緩和(ウルグアイ人、外国人居住者及び政府が定める例外に該当する者に対し入国を許可)。
- 4日、厚生省、共和国大学及びパスツール協会はオンライン共同記者会見を実施し、ウルグアイでブラジル変異株P.2型及び英国型変異株が確認された旨発表。
- 18日、ラカジェ・ポウ大統領は「集会の権利」の制限措置の30日間延長を決定。
- 26日、前日にシノバック製ワクチン初回到着分がウルグアイに到着したことを受け、ラカジェ・ポウ大統領と王剛駐ウルグアイ中国大使は会合を実施。

#### 【外交】

- 3日、ラカジェ・ポウ大統領はブラジルを訪問しボルソナーロ伯大統領と会合を実施し、メルコスール加盟国の第三国との貿易柔軟化について議論した他、メリン湖及びウルグアイ川の水路開発の可能性について協議した。
- 17日、ラカジェ・ポウ大統領はアブド・ベニテス・パラグアイ大統領と会合を実施し、両首脳は二国間主要議題について協議し、ウルグアイ及びパラグアイ産品の世界進出に向けて輸送及びロジスティクス面での取り組みの必要性について一致した他、メルコスール強化の必要性を強調した。

### 2 本文

#### 【内政】

##### 1 ラカジェ・ポウ政権の支持率

Factum社が1月に実施した世論調査によると、ラカジェ・ポウ大統領の支持率は54%で、不支持率は44%であった。政権運営に関し、分野別で最も評価が高かったのは新型コロナウイルス感染症によるパンデミックへの対処で、支持率は57%、不支持率は41%であったが、同社前回調査と比較して支持率は大幅に低下した。雇用、貧困問題、収入及び物価上昇についてはマイナスの評価となり、治安に関する評価のみが改善した。

##### 2 塩、砂糖、脂肪等を過剰に含む食品の表示義務化

2月1日、政府が1月28日に発表した、食品に塩、砂糖、脂肪等を過剰に含む食品の表示義務化に関する新たな政令が発効した。バスケス前政権の決定により表示義務化は2020年3月1日から開始される予定であったが、ラカジェ・ポウ政権によって複数回(3月11日、6月18日及び9月2日)にわたり延長され、最終的に2021年2月1日まで延長されていた。食品表示義務化にあたり、ラカジェ・ポウ政権は2020年9月半ばにより厳格な数値を設定する

旨決定したが、企業部門からメルコスールにより承認されている数値からかけ離れているとする苦情を受け、バスケス前政権時に計画された初期の数値に再調整された。新たな基準により表示要件が緩和され、乳糖、果物、野菜、ナッツ類について例外が設定された。

### 3 社会開発省事務総局長の交代

1日、社会開発省はマルティネリ事務総局長が同役職を離れ、大統領府でラカジェ・ポウ大統領の顧問を務める旨発表した。マルティネリ事務総局長はラカジェ・ポウ大統領の上院議員時代に法務顧問を務めていた。辞任の理由は明らかになっていないが、報道ではバルトル社会開発大臣との関係の悪さが指摘されている。

9日、マルティネリ前社会開発省事務総局長の後任に弁護士のマリア・ホセ・オビエド法務・公証業務部長が就任する旨発表された。

### 4 緊急検討法の廃止を問う国民投票実施に向けた動き

11日、緊急検討法に対する国民投票実施賛同委員会はキャンペーン活動開始から133,095名分の署名を集めた旨発表した。目標はラカジェ・ポウ政権発足時に議会へ送られ2020年7月に承認された緊急検討法の135の条文を廃止する国民投票実施の認可を得ること、7月8日までに有権者の25%にあたる約70万人の署名を集める必要がある。

## 【新型コロナウイルス】

### 1 中国シノバック社製ワクチン購入交渉

1日、デルガド大統領府長官は王剛駐ウルグアイ中国大使と会合し、政府を代表して、中国政府からの支援により異例の速さでシノバック社製の新型コロナワクチン入手が可能になったことに対し感謝の意を表明した他、購入合意に至った175万本のワクチン受け渡しに際し、両国でのロジスティクス面及び事務手続き面における連携強化の重要性について協議した。

### 2 国境措置の緩和

2月1日、ウルグアイ人、外国人居住者及び政府が定める例外に該当する者に対し入国が認められた(2020年12月20日までの措置と同様)。

### 3 ブラジル変異株の検出

4日、厚生省、共和国大学及びパスツール協会はオンライン共同記者会見を実施し、1月に国境で実施された疫学監視調査の結果、ロチャ県及びリベラ県国境で採取された検体からブラジル変異株P.2型が確認され、また最近の調査で12月に入国した者の検体から英国由来の変異株が確認された旨発表した。ブラジル変異株の侵入時期は12月中旬と特定されているが、より多くの検体を確認し詳細について調査中。英国変異株についてはおそらく12月20日の入国者であるが、現在ウルグアイ入国に際し課されている条件及び衛生規定により、英国変異株はウルグアイ国内で拡大していないと考えられるが、さらなる調査が必要であるとした。

### 4 「集会の権利」の制限措置の延長

2020年12月に公布された、憲法第38条が定める集会の権利を一時的に制限する法律は、1度に限り30日の延長が政府に認められていたところ、18日、ラカジェ・ポウ大統領は、集会の権利の一時的な制限措置を30日間延長する旨決定した。同措置は新型コロナウイルス感染症拡大の第一波を抑制するため、12月19日に議会で承認され成立し、有効期間は60日間と定められていたが、政府による30日間の延長が1度に限り認められていた。

## 5 王剛駐ウルグアイ中国大使との会合

26日、ラカジェ・ポウ大統領はデルガド大統領府長官及びブスティージョ外務大臣の同席のもと、王剛駐ウルグアイ中国大使と会合を実施した。同会合はシノバック製ワクチン初回19万2千回分がウルグアイに到着した翌日に行われた。王剛駐ウルグアイ中国大使は同会合後、ラカジェ・ポウ大統領の中国シノバック製ワクチン調達のための洞察力と粘り強さを強調し、中国とウルグアイの間の戦略的協力は今後、より大きく実りある結果を達成するだろうと述べた。

## 【外交】

### 1 ボルソナーロ伯大統領との会合

3日、ラカジェ・ポウ大統領はブラジルを訪問しボルソナーロ伯大統領と会合を実施した。今次訪問はラカジェ・ポウ大統領が大統領就任後初の外遊となった。両大統領が非公式会合と位置づけ、両国外相及び他のブラジル閣僚も出席した同会合で、両大統領はメルコスール加盟国の第三国との貿易柔軟化について議論した他、メリン湖及びウルグアイ川の水路開発の可能性についても協議した。

### 2 アブド・ベニテス・パラグアイ大統領との会合

17日、ラカジェ・ポウ大統領はマルドナド県プンタ・デル・エステの大統領別邸でアブド・ベニテス・パラグアイ大統領と会合を実施した。両首脳間の会合は2020年3月1日のラカジェ・ポウ大統領就任式以来で、ブスティージョ外務大臣及びアセベド・パラグアイ外務大臣同席の昼食を含めた同会合は2時間以上に及んだ。今次会合にて両首脳は二国間主要議題について協議し、ウルグアイ及びパラグアイ産品の世界進出に向けて輸送及びロジスティクス面での協力の必要性について一致した他、ラカジェ・ポウ大統領がメルコスール他加盟国首脳と実施した会合についても言及された。両首脳はメルコスール強化の必要性を強調し、メルコスールを世界に向け開かれた組織とすることが極めて重要であると述べた。

## 【要人往来】

### ○往訪

●3日 ラカジェ・ポウ大統領のブラジル訪問(ボルソナーロ伯大統領との非公式会合)

### ○来訪

●17日 アブド・ベニテス・パラグアイ大統領、アセベド・パラグアイ外務大臣